第２回郡山アーバンデザインセンター・コンペティション
「福島発・地域と共に生きるデザイン」テーマ解題シンポジウム

日時：2012 年 2 月 5 日 15:30-17:00

清家　剛（東京大学准教授、UDCKo センター長）
有馬裕寿（米屋企業（株）代表取締役）

清家剛

有馬裕寿

郡山アーバンデザインセンターについて

司会　現地視察おつかれさまでした。ここから、今回のコンペテーマに関するシンポジウムを始めたいと思います。まず、お話いただくお二人を紹介いたします。郡山アーバンデザインセンターのセンター長で東京大学准教授の清家剛先生です。
清家　よろしくお願いします。
司会　米屋企業代表取締役の有馬裕寿さんです。
有馬　よろしくお願いします。
司会　では早速ですが、清家先生からよろしくお願いします。
清家　それでは話を始めたいと思います。ここでは、コンペに関わるいろんな情報をみなさんにお話して、それをネットで情報を広く公開して、ここに何を考えて欲しいかといったようなことをご紹介するというのが、今日の主旨であります。
まず自己紹介がてら少しお話をさせていただきます。私のことを昔から知っている人―何人かいらっしゃるのですが―その人の方が混乱すると思うんですけど、今日私は郡山アーバンデザインセンターのセンター長という立場でここにいる訳です。が、元々はもっと建築の構法とか建築の環境配慮とかそういったことを専門にしております。ですから、まちづくりとかアーバンデザインとかそういったものが専門ではないのですが、ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、2009 年の 12 月に私の同僚であった北沢猛先生が癌で亡くなられてその後を引き継いで、この場にいるという形です。私ともう一人、センターのメンバーには入っていないのですが、同僚の社会学の清水亮先生と二人で、私は建築で彼はまちづくりの住民運動を観察するという側なのですが、そういうコンビで郡山（UDCKo）あるいは田村（UDCT）を支えてきているということです。
そもそも、北沢先生がなぜここに関わったかというと、ここに福島の地図を出しますが（資料３）、ここに喜多方がございまして、北沢先生が喜多方のご出身だったこともあり、喜多方のまちづくりをやられていました。そのあと、ここにいらっしゃる福島県庁の芳賀さんから、田村や郡山でもいろんなまちづくりの話があるので少し考えてくれないか、ということで、ここにアーバンデザインセンターが二つ、UDCT と UDCKo という形でできました。
で、もう少し話をすると、UDCT というのは田村市と東京大学で共同で運営しているような形になっていますので、「田村」限定で田村のことしかしない。これは当たり前のことなのですが。ところが、郡山は NPO 法人という形を今は取っていて―皆さんなんで郡山って書いてあるのに須賀川なのと疑問だったと思うんですけれど―、このエリア（郡山を中心とした福島県中地域）全体を対象としようと。元々は並木という郡山市の一地区を対象としていたのですけど、むしろ震災が起きてからは広く、福島を中心としたいろんなエリアのお手伝いをするというスタンスを取りましょうということで、こういった形で活動を続けています。その中の一環として、この須賀川を対象に郡山の UDCKo が中心となってコンペを行う、というのが経緯です。

福島からの発信

清家　いろいろ喋らないといけないところがあるんですけど、福島の方にはわかっていることを少し。いろいろなことをこれから喋りますが、まずこの福島県の地図（資料３）で、新幹線と東北自動車道の通るこのエリアはですね―天気予報も違うんですけど―中通りといいます。ご存知のかたも多いと思いますが、福島県は浜通り、中通り、会津というふうに呼ばれていまして、３つとも全然気候が違う、文化も違う、いろいろ違います。で、特に今はっきりしているのは雪です。今日郡山須賀川は雪が積もっていますが、雪は積もりますがそんなに深刻ではないんです。が、会津に行ったとたん車がなかなか動かないとか、そういったことになります。一方で浜通りの方はほとんど雪が降らない太平洋側の気候です。
今回のコンペで「福島発」とわざわざ付けているのは、福島から発信するということが結構大事だと思っていまして、というのは今やっぱり、北の２県（宮城・岩手）は、人が出てきて津波でやられた町が出てきて、非常に皆さんに実態が伝わっているかと思うんですが、一方で、福島のニュースってどうなっているかというと、もう原発・東電・政府っていうことしか出てこなくて、そこに暮らしている人がどんなになっているのか、困っているのかっていうのがあんまり報道されないんですね。ですから、皆さん上の岩手・宮城の問題意識と、福島の問題意識はだいぶ違うんだと思うんですけど、そういう意味では非常に福島の問題、福島が抱えている問題というのは非常に難しいものになっています。何せ相手が放射能という目に見えないもので、なかなか時間のかかるものです。堤防つくれば町に戻れるという話ではない、というところも違ったかたちで考えなきゃいけない、というのがこの福島の全体の問題になります。
ですから、被災した地域があってそこから皆さんいろんなところに比較的集団で仮住まいをされています。例えば田村市だったら田村市内の一部が警戒区域にかかっていますので仮設が要るとかですね、郡山から来た人は見られたかもしれませんが、ビックパレットというばかでかい施設がありますが、その横にばかでかい駐車場があって、その駐車場に 300 戸ほど仮設住宅があります。ある町がごそっと仮設に移住してくるという形、あるいは三春ですと葛尾からとか、いろんな方々が集団で来てるんですね。
ただ、今起こっている問題で言うと、浜通りの方々は、さっき言ったように雪に慣れていないので、会津まで行ってしまうと頻繁に交通事故が起きているとか、そういう問題もあります。それ

から原発近隣の方々は移住せざるをえないのですけど、放射能の問題というのは福島県全体に関わる、あるいは全く被害も受けていいない、放射能も何もないのに福島ということだけで、何か風評被害じゃないですけど印象が悪いと、そういったことがいろいろ折り重なっているというのがこの福島の現状です。
その中で、やっぱり未来に向けた明るい話題を、しかも東京とか首都圏ではなかなかできない、あるいは今のんびりとした平和な地域ではできない、あえて何かしなきゃいけない福島で提案を求めたいというのが、このコンペの根幹に関わるところです。
ですから先に言っておきますけれど、いくつかキーワードを出していますけれど、何か具体的なイメージで「こういうのをやってほしい」というのがちゃんとあって出している、こうゆう要求条件だということを考えてつくっているコンペではないんです。むしろ皆さんなりに福島で、この地で考えて、こういう住まい方なり、こういう町なり、―まぁ、「つくらない」という提案もあるかもしれませんけれども―こういうことをすると、別に原発に関係なくもう一歩先の未来そしてアイデアがあるじゃないか、ということ発信する、ということの方に主眼を置いたコンペになっている、という風にお考え下さい。ただ、私は審査員の一人ではあるんでけれど、審査委員会でそれがどうなるかはわからないというのは断っておきますが、そういった流れになっております。

対象敷地の特徴

清家　これから少し、福島の現状をご紹介するんですが、その前にですね、今せっかく回ってきた敷地の、新鮮なうちに少し確認しておきます。さきほどの回ったコースは、ここ (A) の境界線で皆さんバスを降りていただきました。で見えていたのがここの雪で真っ白く見えていたあたりで、でここ (B) を見ていただいて、車がこう (C)、にょろっと通ってでた訳ですが、ここ (A~C の辺り) だけがこの敷地の中での平地であって、あとはこういう丘陵地になっているというのがここの実態です。
で、ここ (D) をこう回りまして、小学校に出てぐるーっと回り込んだのですが、ここ (E) 遠目に雑木林が見えていたと思うんですが、それはこの (F) 斜面で、この向こう側が対象敷地になっています。でこの辺からずっと降りてこう入ったんですね。ここ (G) で、ちょっと南側で見えていたのが、この敷地外の丘 (H) のところでした。でこの辺で一旦停まりました。ものすごく細い道を通ったと思うんですが、それがこの道 (I) です。で、また下に橋の方に行きまして、対岸から見て (J) 戻ってきた、というのが今回、現地見学で通ったコースです。敷地の特徴としては、皆さんなりに考えていただければと思いますが、一つはここ (A~C の辺り) が平地であるということ。アプローチがこの道 (C) とこの道 (K) を使うことができるというのが現状ですね。それから、米屋さんの駐車場に回り込むと邪魔になることもありえるので、米屋さんとの間をどう一体として考えるかというのが、もう一つのアイデアかと思います。それが平地へのアプローチです。それから、周辺敷地を見ていただいたように、このエッジがこの辺 (L) はただの敷地境界で見えないのですが、逆にここからは (M)、川沿いでこの斜面というのが対外的に見えているというのがこの敷地の特徴です。この一帯が有馬さん所有の土地で、他人の土地をコンペの敷地にはできないので、自分の土地でやっているというので、こういう敷地の形になっています。が、ひょっとしたらアイデアによっては、このエリア全体や敷地をはみ出すようなアイデアも十分出てくる可能性はあるんじゃないかと私は思っています。それからここ (N) を除いているのは、米屋さんが営業していて米屋さんのお風呂から見える範囲なので手を入れないということでこう除かれていますが、むしろ「こうしたらどうでしょうか」というアイデアも出てくるかもしれないと思っています。これが現状、我々が対象として宣言している敷地です。
当然ここの取り付き方、周辺の辺りはアイデアによってははみ出すものもあるのかなと、思っています。ただ、それがものすごく合理的であれば評価しますけれど、「そんな無茶な」とかいうのだと、審査委員会でどうなるかは、私は審査員の一人なのでわからない。たぶんそういう質疑がくると思うので、また相談してきちんと回答したいと思いますが、私の個人的に思っている印象は以上です。

現地見学の様子

福島の現状

清家　それでは私の方からお話をさせていただきたいと思いますが、まず福島の現状についてです。先ほどもお話しましたように、ここ（資料３）に原発があり、20km 圏です。これに絡んではいろんなことが起こっていますが、それ自体はコンペのベースにあるようなものだと思ってください。このエリアの方々のために主に仮設住宅が県内のいろんなところに、こういう広大なエリアに建てられています。
私たちが関わっている田村市は、原発から 20km に一部かかるんですね。そして 30km 圏では田村市の都路という地域が完全に入りまして、都路の人たちが避難するという事態がおきました。今でも田村市でまちづくりの活動をしておりまして、いろんな方々と話をしております。これは 35km くらいの田村市の常葉というところで、そこのまちづくりを今年度対象としてやっています。町の方々といろんな会話をしたり、あるいは避難された仮設住宅で都路の方々と会話をしています。これは仮設住宅の方で盆踊り大会をしている時の様子です。ところで、これは余談ですが、福島は結構おもしろい木造の仮設がたくさん建っています。最近出た本で「木造仮設住宅群」は、日大郡山の浦部先生が中心となって出されたと思うんですが、非常にビジュアルできれいな本です。工務店や大工がつくった仮設としてすごくいいものが建ったのでそれを紹介しています。木造の仮設は後から、時間が経ってからできているんですけど、こういういわゆるプレファブメーカーがつくったものが、やっぱり大量に一番早くできるのです。ですから今回の仮設住宅のなかでも一番多く、３県あわせて 28,000 戸くらいがこのプレファブのタイプで、14,000 戸くらいがセキスイハウスとかミサワホームとかがつくっていて、さらに１万いくつくらいがこの木造でつくられています。
さて、こうやっていろんな方々と喋っていますが、喋った全体像はわかりませんが、町の方に聞くと、あくまで田村市での話ですが、避難している方であっても、避難していない常葉の方であっても 10 人集めてお話を聞くと必ず数名はまず 30 分か１時間くらいは放射能の話をずーっとする、そういう状態なのですねやっぱり。まぁ「気にせず」という人も居ますが、やっぱり皆さんベースにそこが気になっていて、どうなるんだろうというところがあります。仮設住宅が狭いというのは当たり前ですが、「寒くて大変ではないですか」という話を聞くと、逆に古くて広い家に住んでいらっしゃったので仮設のほうが暖かいとかいう、こちらが思っていたのと違う答えが聞けたりしますが、

そういう福島の皆さんいろんなマインドがあるんですけど、どこかに先々に対する不安があるというのが実際だと思います。それは避難した方もそうでない方も全般にある。そういうふうに私は受止めております。
県内の方はご存知のことですが、放射能のこういったマップがでていまして、実は郡山・福島市は線量が高いんですね。我々がまちづくりで関わっている田村はものすごく原発に近いのに、低い値です。いわきなんかも低い。で実は北側が高かったというような形になっています。郡山で今 1.0（毎時マイクロシーベルト。以下同単位。）を切った 0.9 くらいで、田村市だと 0.1 くらいです。また余談ばかりですが、私の専門である建物の被害調査などに来ていると福島県内に入った途端に天気予報のようなものですが、お昼のニュースで「今日の放射線・・」、「毎時」と言って「福島 1.・・、郡山 1.・・、田村 0.・・いわき 0.・・」そして最後に「マイクロシーベルト」と言うと。ずーっとかなり早い段階から情報提供をしていて福島県内の要所要所のところは３月の時点から線量が測られて報告されていました。
つまり、あの日から皆さんずっとそういう数字に向き合っているんですね。やっぱりベースにそれが、たとえ全く値の低いどこの人でも福島というエリアに居る限りはその話がどうしてもベースにあるというのが本音かなと思っております。

地震動による建物被害

清家　それからもう一つ福島のことで本当に知られていないのですが、意外と建物の地震動による被害というのが大きかったと私は認識しています。３県のうち、岩手と宮城の津波にあったところの建物被害というのは、実際地震動でどれぐらい被害があったかというのは実ははっきりしませんが、私が見て回ったところでは、―仙台の東側は被害が大きいんですが―仙台の駅前はそんなに被害がない。それより被害があると私が感じているのは、水戸、北茨城、宇都宮の東側、それからここの須賀川と郡山です。地震の被害で市庁舎が使えなくなったとことは数市しかありませんが、それが須賀川市と郡山市です。須賀川は全壊、郡山は直後に入れなくなりました。市役所が被災するとすべての救援活動が別のところでばらばらに行われるので、須賀川と郡山の被災に関する初動というのはすごく遅れたと言われています。郡山までは被害があるんですが、福島市に行った途端に被害がない。それから郡山でも、これは市民が避難していた体育館でかなりガラスが割れていますが、こういうエリアがあるんです。けれど、駅前は全然大した被害はなくて、超高層ビルなんかも平気で、超高層ビルだけでなく普通の建物も駅前の被害は非常に少ない。今回の地震で、どこでも言われていますが被害がものすごく大きいところと小さいところが斑になっている。地盤とかいろんな要素が働くんだと思いますが、全体に須賀川・郡山というのは今回の地震による被害が大きかった方です。そういうところであったというのも意外と知られていません。もうひとつだけ須賀川のこのエリアには灌漑用のダムがありまして、当日ダム湖が決壊しまして８人の方が亡くなっています。これもほとんど東京では報道されていません。このエリアでは結構な事故で、これはカラカラに乾いた夏の写真で、この部分が決壊して土石流のようなかたちで洪水が起きた。そういうことが内陸ながら起きて、結構な被災が点々とある。でもここは建物は無事だし、道は崩れたところはあるんですけど、ちょっと移動すると平和だったりします。これが今回の地震の特徴で、広域で被害が起きていて、いろんな被害があるところとないところがある。放射能も高いところ低いところがある。このへんの斑な感じが難しい。福島を須賀川を全部こうしろ、という一括でポンと何か対策が打てるという状態ではない、というのが私の認識です。
こういう地域あるいは、状況であるということは前提として知っておいていただきたいところなんですが、このコンペに出す出さないを含めて関わっていただく方には福島の現状には少し目を向けていただいきたいなと感じております。

自然エネルギーの活用

清家　こんな暗い話ばかりをして、それだけで終わっては何もならないので、今回、基本理念として「豊かな自然と共に暮らす」「持続可能なコミュニティの実現」「自然エネルギーの活用」
この３つが基本理念として出されています。ただ、これを 3 つとも満たさないとダメとかそういうことではなく、こういうのが基本テーマの底にはあるよねということを理解して臨んでいただければと思っております。これ全部に専門の人ってたぶん居ないのですけど、私なりに少し自然エネルギーとかに関しては多少事例を紹介しておこうかなと思って用意してきました。
省エネ・創エネという自然エネルギー利用というとまずは高気密高断熱ということが言われています（ヴォーバンの集合住宅）。ここも冬来るとよく分かるんですが、特に寒いので―夏も暑いんですが―断熱というのは基本だと思うんですが、今回それ以上にいろいろテーマになっているのは、エネルギーをつくるとか、そういったことかなと思っています。そういうのはやっぱりヨーロッパは熱心で、例えばこれはプラスエネルギー住宅（ドイツフライブルグ）。電気を売るくらいまで太陽光発電を載っけてしまえ、という事例もあります。あとは太陽熱利用で、屋根全部が太陽熱給湯器。でもこれは本当に不思議なのですが、ドイツとかで太陽熱とか太陽光発電とか載っけていますけど、冬は曇天が多くて、これら役に立ってるのか？と不思議な感じがするのです。「太陽光発電は元は取れない」とドイツ人はちゃんと言っていて、「イタリアぐらい南に行かないと無理だ」という感じらしいですが、それでも自然エネルギーの比率を増やそうということで一生懸命こういうものを設置するんです。それをただ設置するだけでなくて、やっぱりその町のイメージだとかデザインにしている。このへんは微妙なところで、やっぱりこの土地・自然とともに暮らしているところで、こういうのは合わない。「自然エネルギーだ！」という絵柄とマッチしない。やっぱり昔ながらの瓦屋根のほうが本当はいいんじゃないかとか、それはデザインとしての解決策をどこかで見つけていただくしかないかなと思います。ここでは、とりあえず見慣れないものを並べております。これはアーヘンで、壁の方が集熱パネルです。屋根ではない。だいぶ北の方にいくと、太陽が当たるのが屋根だけではなくて、壁も多くて集熱ができるので、こういうパネルを使っていて、そういうのが全部デザインになっている。これ（オランダの集合住宅）なんかは強烈に「太陽光発電」。何にもないところにボコっとこの団地が建っている。周りに水路があって、自然と共生しているんだかなんだか。非常にオランダらしいイメージのまま、太陽光発電を載っけている。これはかなり発電するタイプですが、一方でオランダの別の集合住宅団地に行くと、発電の役にたたないような、この壁がガラス面でそのいくつかが、こういうシースルーの太陽光発電で、これなんか発電量ぜんぜんダメで低い。さっきのは多分ずっと昼間家に居たって電気を売れるくらいの発電量ですが、こんなのなんの足しになるんだろうというところですが、この団地自体はデザインを重視している。いろんな形のソーラーの使い方を提案しましょうということで、いろんな建築家がいろんなデザインをやっていて、これは効率重視ではなく、むしろ一つのコンセプトになっているものです。
そんななかで大物を二つほど紹介します。どちらも古いんですが、これはオランダのアメルスフォートのニューランドという開発です。全体で、ばかでかい！ 4500 戸もありますが、このエリアに、真ん中に少し高層があって、戸建てで中層の３階くらいのが周りに建っている団地です。それぞれに環境配慮を目指そうということで、最後４期目の開発の時に 500 戸くらい太陽発電を載っけまくった。町じゅう太陽光発電。しかもこれは壁型で、こっちは違う載せ方で、というのをやっている。1999 年の頃ですから、当時としては相当新しい。まだそんなに効率が良くなっていない太陽光発電の時代に、よくこんなことをやったなと思うんですが、それでもやれるのがヨーロッパの環境に対する社会的なプレッシャーというか合意というか、そういっ

たところかなと思います。
これももうちょっと古くなりますが、2001 年にできたベドゼットという、ロンドンの郊外にあります。それほど戸数の多くないところですが、これも太陽光発電だけでなく、リサイクル材を使っています。イギリスは意外と古いレンガが流通していて、古い建物を直すのに古いレンガが売れるんです。そういうマーケットが成立している。近場の古いレンガを集めて壁を仕上げる、とかいうことまで取り組んでいる。非常に環境に配慮した住宅です。しかもこの住宅は住まい方まで考えている。強制している訳ではないんですが、提案しています。普通のイギリス人が普通に住んでいると、地球が３つ要ると。普通のイギリス人の生活で地球上の皆がベドゼットに住むと地球は２つで済むと。それでも足りないということです。建物だけじゃ足りないと。住まい方まで工夫して世界中の住宅がベドゼットになれば、地球は１個で足りていますよと。どんな生活かというと、例えば自動車は持たない。週末に共有の電気自動車を使う。２年に１度しか飛行機に乗ってはいけない。飛行機は CO2 の排出量がすごいので。地域の新鮮な食材を食べましょうとか。こういうことを提案しています。何が言いたいかというと、こういう環境配慮の住宅をつくる・デザインするというだけではなくて、ここでは環境に配慮したライフスタイルを提案している。こういう生活スタイルを求めているというのが今回のコンペの主旨とは限らないですけれど、そこに住む人の住まい方や人々の暮らしまで含めた提案があるといいなと思っています。実際の話、ヒアリングするとこのマニュアル通りに暮らしている人なんかほとんど居ないそうですが、なかなかそこまで生活を変えられないということなんでしょう。しかし、住まい方の提案までしているのは、すばらしい事例だなと思っていつも紹介しています。

いろんな世代の交流

清家　あとは審査員の上野先生が専門になるんですけれど、いろんなコミュニティを育むという意味でいうと、コミュニティのあり方に資するような提案をいろいろ求めたいと思っていまして、これはたまたま一昨年に、神戸の震災の後いろんなおもしろい事例ができているのでそれを少し見に行ったものです。そんなにたくさんある訳ではありませんが。これは長田の真野のコレクティブ・ハウスと言われているところです。１階にコミュニティの高齢者がお話をするようなところがあって、高齢者と比較的若い人―若い人と言っても 50 代 60 代ですけど―がミックスして住むというのを意図してつくられています。実際に交流があるかというとなかなか難しいと仰ってました。あと、この住宅だと片廊下ではなくて両廊下になっていて、他人のリビングの側からのぞき込める。まぁ安否確認ができるような感じなんですが、入口は反対側にあっていわゆるベランダが繋がっていて廊下になっています。という事例もあります。これは高齢者向けではありますが、こういう住み方の延長で、高齢者に向けてというのが今回の主旨ではないのですが、もっといろんな人々の交流、いろんな世代の交流をどう図るのかという提案がでてくればと思います。
これは、たまたま調査でもう一つ行った、市営住宅の中で高齢者がたくさん住んでいて喫茶をしている。ボランティアの人たちが入って運営している。１００円でコーヒーを出すような運営をしています。この運営している人は今回、被災地に入られていろいろ支援をされていますが、そんな活動がどんどん神戸では行われています。
長い目でみると福島を含めて、今回の震災を受けていろんなことが起きると思います。神戸はたまたま街全部が都会だったから、被害も大きいですけれどもある種、街としてはちゃんと機能している訳で、そういう区画ができていると思います。いろいろ起こるうちの第一歩になるような、しかも今回の被災した 3 県というのは多くの場所がそういう神戸のような地域ではなくてむしろ郊外だったり田舎の農村とか漁村とか、そういったところが被害を受けている。そういうことに対して、どんな将来像が描けるのか、というのを皆さんから少しアイデアをいただければなと思っております。私からのプレゼンテーションは以上です。

シンポジウム会場の様子

震災直後の状況

有馬　福島の環境のことは、清家先生の方からご案内ありました通りですので、私からはそのあたりは省いてお話します。まず、私が実際に昨年3月11日の震災を経験した時の話をします。ちょうど 2 月 1 日から大浴場と露天風呂と別館を改修しておりました。全部中を壊した後に地震が来ました。庭の石をクレーンであげている最中とか、建築屋さんが下水を掘っている中に居たとか、ちょうどそういう状況でした。私はすぐに現場に行きまして「大丈夫だったか？」と。工事されていた方は、本当に初めての揺れで怖かったようです。そういう記憶があります。それがスタートでした。結局 3 月は営業できなかったのですが、震災後 1 週間くらいは外に出ましたら鳥は全然いないし本当に静寂な空間でした。本当にこの 1 週間で、これオープンできるのかなと、また営業再開できるのかなと、もう辞めようかなというくらい追い込まれました。たぶん震災に遭った方はみなさん一緒だと思います。実際入口の道路の幅の半分の１ m くらい地震で崩れました。この施設自体は揺れたのは揺れましたが、ご覧の通りしっかりとしていて、被害もなく残ったので、それがきっかけで、一旦やれるのかやれないのかまで追い込まれたのが、なんでこんな風になったんだという考えになりました。

米屋のこれまで

有馬　うちの会社は今から 35 年前に私が中学校の時に、うちの先代の社長が興しまして、ほとんどが先ほど見ていただいた通り、住宅団地とか工場とか、それも全部うちの先代が開発したわけです。その前は昭和 25 年まで稲田村という地域でした。昭和 25 年からは須賀川市に合併になったのですが、この稲田地区には昭和 25 年時点で 564 世帯、人口が 3,700 人でした。現在 23 年 11 月の時点で 1,254 世帯 4,200 人という状況です。小学校・中学校・幼稚園とありまして、震災後だいたい 1 割くらいの人が避難または引越しをしたと思います。かつて、小学校とか中学校とか他のところに合併するかというところまで話が行ったんですね。それをここに住宅団地をつくって人口を増やして食い止めるところまで行ったんです。先代はもう居ないんですが、先代がせっかくここまで行ったのに、放射能で人が居なくなる。次は過疎化で人が居なくなる。ということを肌身で感じてきた次第です。それがきっかけで、このようなアイデアコンペを開催するというところまできました。私は、すごく立ち直りが早い方で、一旦沈んだんですが、「いや、こんなに沈んでは居られない」と、せっかくここの旅館も開業して今年ちょうど 20 年なので、もうちょっと頑張ってみようかなと思いました。せっか

くこの3万坪という資産を残していただいたので、皆さんと共に、この地域の人と共に何かできないか。例えば有料老人ホームとか医療施設がちょっとこの周辺はないんです。5km ぐらい行かないと病院がないもので、その辺の誘致も自らやりたいなと思ってはいました。

シンポジウム会場の様子

被災者の支援

有馬　例えばこれまで、福島民報さんのご協力のもと、加須市に避難した富岡か双葉の人をはとバスで乗っけて来て、先ほどの広場（A ～ C の辺り）でヒマワリをスマイルの形に植えるいうことをしました。その時来た中の 70 歳過ぎの老夫婦が言っていたのが「いやぁ、3ヶ月ぶり半年ぶりに土をいじった」と感激されていました。たかがヒマワリの種を植えるだけなんですが、涙ながら感謝されたという記憶があります。あと震災当日 2 組の南相馬市の人がうちに泊めてくれないかと来られました。1 組は一泊でしたが、もう一組の家族は1ヶ月くらい滞在しました。家も流されてどうしようもないということがありまして、そういうことを見ていると、何かしなきゃなと思いました。じゃぁこの施設で何ができるか。この施設は施設で借金もありますし、ちゃんと持続しなくてはいけない。でもこの空いている敷地が3万坪ある。これをどういうふうに利用したらいいか。皆さんは初めて来て里山の田園風景という感じがすると思うんです。そこに例えば「ビルディング」を建ててもたぶん合わないと思います。グランドデザインていうのも、すごく大事だと思いますが、なんと言いますか、最近見た雑誌「自遊人」（3月号）の移住の特集にありました長屋なんていう住まい方とか、ここの住宅団地の方で家が崩れたというところも若干ありましたので、その人たちがこの（対象敷地でできる）集落に来るとか、そういう事業をやれたらすごく良いなと。震災後は、笑いといいますか、楽しさといいますか、希望も夢も言っちゃいけないのかなと思っていた時期もありました。が今、早めに発信をしないとわかっていただけない、というのがありまして郡山アーバンデザインセンターさんにお願いしまして、今日に至ったわけです。

できればこの丘陵地をあまり破壊しないで、できるだけ木を残した感じで。さきほど上の部屋から望んでいただいた通り、やっぱりそこに変な、宿泊のお客様にとって嫌なものが建っていたら良くない。NTT の電波塔が 1 つありましたよね、私見えないと思って許可してしまってがっかりしているんですが、自分で。そのようなものは本当に好まない、と私は思います。それじゃあ何ができるんだというのを考えていただきたい。あと、皆さん第二のふる里という部分でも一人一人あると思います。私はここで住んでずっと居ますのでぜひその辺まで考えていただきたいなと思っています。

稲田村について

清家　まだ少し情報が足りない部分があるかと思いますので、私から少し伺いたいと思います。私は大きな福島の話をさせていただいたのですが、一方これは、皆さんにぜひ考えていただきたいことですが、今お話されたこの敷地内の話だけではなくて、このローカルなエリアの話をお願いします。この構成とか状態とかこの集落この学校のエリアとかそういったところを少しお聞かせください。

有馬　稲田村というのは 6 部落から成っています。この中心部は岩渕といいます。敷地から 1km くらい北に稲村というところがありまして、そこが昔1300年頃ですが、稲村御所がありました。二階堂家のお城があった場所です。その左側に松塚、そちらにも今はおそらく 300 軒くらいの区画があります。西の方に泉田という部落がありまして、そちらはほとんど田圃です。その下に保土原、その西側に古戸という地域で構成されています。昔は2つ小学校がありまして、第一と第二の稲田小学校・中学校がありまして、今は一つになりました。

清家　敷地に隣接する、ここのエリアが稲田村の中心だったのですか？

有馬　そうです。

清家　このエリアは全体的に農業系の町に見えるんですけれど。

有馬　90% 以上くらい農家の方です。で、うちがここで初めて商売をやるのが米屋（こめや）だったんです。地域からトラックで乗っけて米を買い取って関東方面に持って行くのが先代の仕事だったので、「米屋（よねや）」という名前になりました。

清家　それ以外ですと、ここ（敷地北西隣）に工場がある。昔は三菱の工場？

有馬　三回くらい替りまして、一番最初は電卓の会社だったんです。電池を入れて使うような。1970 年後半くらいですかね。主流が電池からソーラーになって、つぶれてしまった。でその後、三菱電機になりましたが、今は三菱も会津の駅前に戻りまして、今はグラントマトという肥料とか農業資材のスーパーの配送センターになっています。これはつい最近です。

清家　このエリアの活動域というのはどうなっていますか。たとえばこの釈迦堂川を挟んで―川って結構邪魔なものですから―、向こう側との交流というのはあまりないですか。

有馬　はい、全くないです。岩瀬郡鏡石町になります。橋の反対側は。

清家　ここの敷地で考えると「ご近所」というのはここのゾーン（敷地西隣のエリア）くらいになるのでしょうか。人の顔を見て、なんとなく友達が居るというような。

有馬　そうですね。なかなか団地の方は全員知らないんですが。

清家　団地というのは？

有馬　米屋の隣にある笠木団地です。あと、その向かい側の北側の方にたくさんある前南団地。これが一番大きい団地です。そちらの人たちは全員知っているわけではないです。昔からの岩渕の方は 80 世帯くらいですかね。それがほとんど農家の方でした。その方々は、私が仕事終わって夕方家に帰ると、いきなり玄関に白菜が 10 株くらい置いてあるんですよ。今でもそういう場所です。昔ながらのそういう交流はあります。

清家　一方で買い物とかはどこに行かれるのですか？

有馬　買い物は、南側の鏡石にあるスーパーですね。4 号線を越して、2km くらい先なのですが。そちらにスーパーが2か所くらいあります。あとは、ここから 5km くらい離れています須賀川市内のスーパーですね。そちらに行きます。

清家　つまり、このエリアで生活が独立して自律しているという状況ではない。都市的な機能という点では。

有馬　買い物などはそうですね。難しいですね。でも今は、そういう場所というか、車がない人には、配達していただけるサービスがあるので、そういうのに頼っているというのが現状です。

清家　このエリアの方々の年齢層というのは、高齢化が進んでいる感じですか。

有馬　昔からの 80 世帯くらいの農家の方ですとやっぱり 65 歳

以上の世帯主が多いですね。住宅団地の方々は、田中角栄の列島改造論の時代にだいたい住んだ方なので、だいたい 60 歳で退職したかどうかという方が世帯主さんで、その子供さん達が後を継ぐかというと、その人たちがほとんど東京とか郡山とか他に出て行っている状況です。

清家　あと、この団地の方々も含めて、通勤するとなると、働きに行くところは何処になるんですか。

有馬　ここは、郡山と白河のちょうど真ん中なのです。さっき見えた須賀川の工業団地、あそこに勤めている方もいます。あとは郡山と白河も一部いらっしゃいます。

清家　そのあたりまで、だいたい車で通勤ということですか。

有馬　4 号線は一番混むんですね、須賀川では中央を通っていますから。郡山でも裏道で行くとだいたい 30 分くらいで出社できるという具合です。

清家　以上、補足的に私からお伺いしました。こんなエリア、こんな成り立ちのところなので、全くここじゃなくても成立するアイデアもあると思いますし、ここじゃないとできないアイデアもあると思いますので、いろんな形のご提案をしていただければと思います。我々の話はとりあえず以上です。ありがとうございました。

有馬　ありがとうございました。

司会　それでは、今お話しいただいた内容の他、今回のコンペのテーマに関して、全般的に会場から質疑を受け付けたいと思います。いかがでしょうか。

今回の審査員について

清家　あまりないようでしたら、私からもう少し。私もどうなるかわからない、というところだけ宣言しておきます。提案によると思うんですが、審査員についてです。トミーさん、上野さんはどういう出方になるのか分からないのですが、少なくともこういう方々が入っていただいているので、市民目線とか「人」寄りの話というのは審査の話の中に入ってくると思います。この中では、私は非常に中間的な位置で、益子先生が入っていらして建築を評価されると思いますが、審査委員長の出口先生は思いきり「アーバンデザイン」「都市計画」なので、どう出てくるのか。出口先生は北沢先生の後任として去年の 4 月に着任されて 1 年近くお付き合いして、やっと人となりがわかってきたんですけど、大きな計画や全体計画がお得意で、お好きなので、審査でどちらになるかですね。エリアの全体のデザインをしたほうが評価が高くなるのか、もう少し細かいスペースごとの提案のほうが評価が高いのか。私自身もどうなるのだろうなと思いながら見ているところです。むしろ皆さんは得意なところで勝負していただいたほうがいいのではないかなと感じているメンバーです。私から補足でした。

農業研究の機能

会場　お話をお伺いして、想定されている機能とか、ゆるやかなんだなということはわかりました。そこで「農業研究の機能」というのが資料にあるのですが、これは何か特別にネットワークがあって、どこかの研究所の方との関係があるとかですか。

有馬　ここには温泉の排水がございまして、温泉を冷却槽に入れても 40 度近い温度なのです。それで一度、ちょっと前なのですが、それを利用して郡山女子大の先生がソバの実をつくったらどうだと、言われた経緯がございます。この機会に、たとえば放射能という問題もありますので、温泉で栽培したほうが、またハウスもして、そのほうが安心なのかなと。私自身も農業をやったことがないので、まだ勉強不足なのですが。できれば地元の農家の方もその辺は興味があるみたいなのです。まあ、その程度です。

会場　わかりました。ありがとうございました。

清家　お話にあったように、全体に放射能の話があって農業がどうなるのかというところです。野菜や植物工場というのが県レベルでもいろいろ言われていて、このあたりは農業の方もいらっしゃるとか、あるいは被災した地域の方がもし移住するようなことも想定するのであれば、農業関係者も非常に多いというところで、何かそれに連なるようなこともあるんじゃないかということです。ぽっといきなりここだけ具体的に入っていますけれど、そんなイメージで入れているというところです。

有馬　そのぐらいの農業施設をやるとなると、たぶん補助をもらえないと、なかなか全部をうちだけではできません。私が植物の育成を全然できないので、やっぱり外からの援助をもらわないと。それがあれば、わが社とそちらが組んでやるというのは考えています。

交通アクセスについて

会場　このエリアの公共の交通網の関係とかはどういう感じでしょうか。

有馬　須賀川インターってご存知ですか。インターから 118 号線で長沼街道というのがありまして、そちらの方にバスが 1 時間に 1 本くらい、朝晩は 30 分に 1 本ですが、それがあります。さきほど釈迦堂川の橋（敷地南側）を渡りましたが、あそこには鏡石と奥の天栄村をつなぐ、そちらも 1 時間に 1 本のバスが走っています。須賀川駅まで行けます。

清家　駅までバスで何分くらいですか。

有馬　小学校以来、というくらい乗っていないのですが、、30 分はかるくかかりますね。

清家　逆に車で移動すると、高速のインターまでと、須賀川駅と郡山駅とそれぞれ何分ずつくらいですか。

有馬　インターは 10 分、須賀川駅は 15 分、鏡石駅は 7 分くらい、あと郡山駅は 30 分あればじゅうぶん着きます。あと、鏡石のパーキングエリアにスマートインターが最近できまして、さっきの橋からすぐ見えるところがスマートインターになっています。そこからだと車でほんの 3 分くらいでここに着きます。

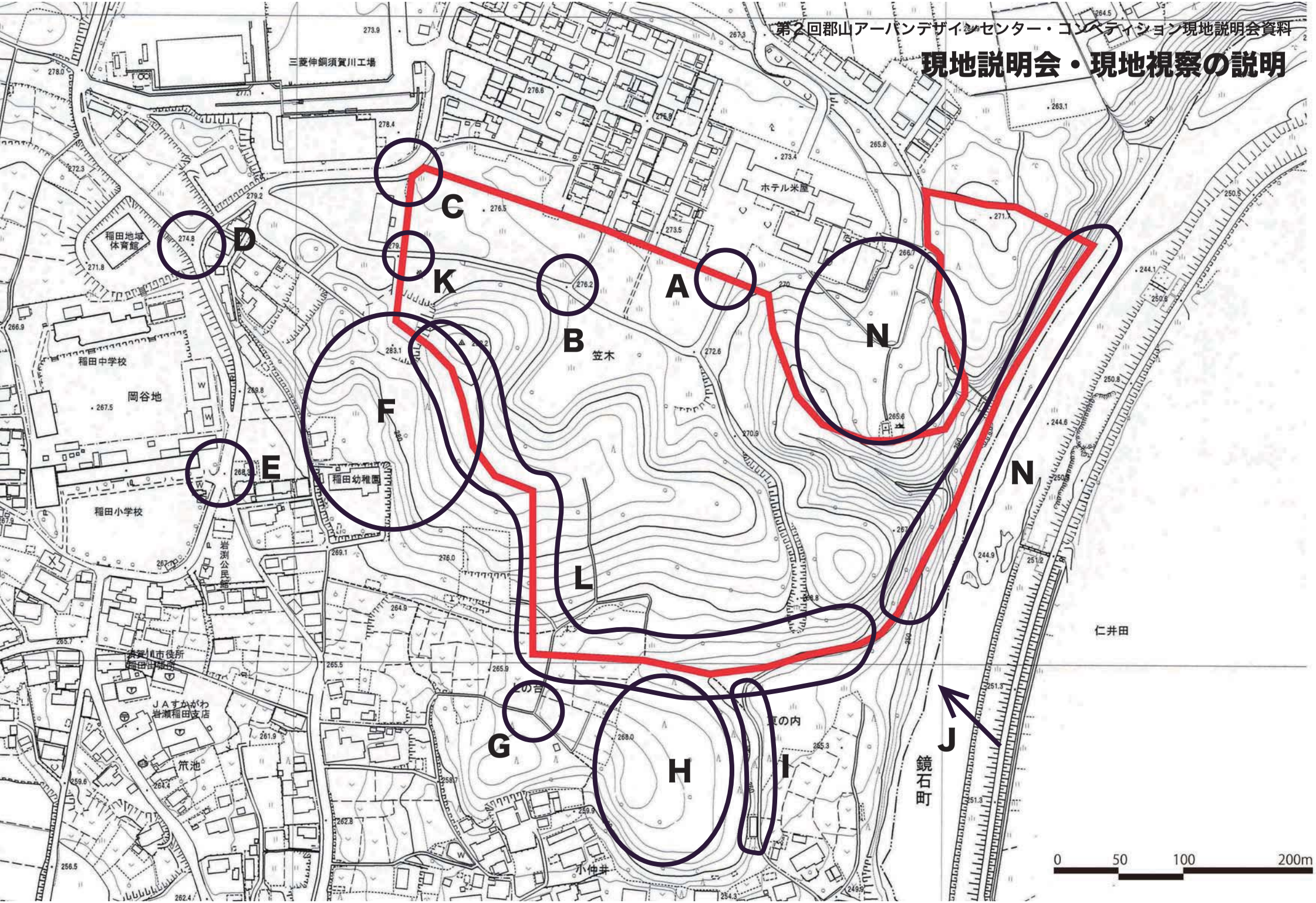
会場　スマートインターとは何ですか？

有馬　パーキングエリアに朝 6 時から夜１０時まで ETC のみで通れる乗用車の出入口のことです。

司会　ありがとうございました。それ以外、質疑がないようですのでここまでとしたいと思います。またありましたら質疑の締切が 2 月 15 日ですので、それまでにお送りいただければと思います。それでは、以上をもちまして、今回のコンペのテーマに関するお話を終わりにしたいと思います。お二方ありがとうございました（拍手）。

（終了）

釈迦堂川対岸から敷地方向を望む

第２回郡山アーバンデザインセンター・コンペティション現地説明会資料

現地説明会・現地視察の説明